

Ⅰ 構想策定の概要

本編 P3～P4

■ 構想策定の目的

モノレール沿線地域において、多摩市、町田市両市の基本構想で掲げるまちの姿を実現するためにモノレールは都市インフラとして必要不可欠であり、モノレールが走るまちの将来像やその実現に向けたまちづくりの方向性、段階的な取組方針を明らかにする。

■ 構想の位置づけ

多摩市、町田市における
上位計画・関連計画

国・東京都の
関連計画

即
反映

具体化

モノレール沿線まちづくり構想

■ 多摩都市モノレール
延伸の概要

東京都は、2019年（令和元年）より検討を行い、2021年（令和3年）に延長約16kmの延伸ルート※を選定しました。

※ルート検討委員会検討結果では、収支採算性の更なる精査等の結果によっては、他のルート案をあらためて検討することもあるとされています。



Ⅱ 沿線の現状と課題

本編 P5～P17

多摩センター駅周辺

まちの回遊しやすさと
回遊の楽しさの向上

商業の更なる魅力向上

みどり、憩いの空間の更新



「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る課題
「移動の利便性」に係る課題
※主なものを掲載

みどり

みどり（里山・緑地等）の活用

住まい

良好な住まいづくり

子育てしやすい環境づくり

団地の魅力向上

など



移動の利便性（バス）

バス網の維持・発展

バスの定時性確保



町田駅周辺

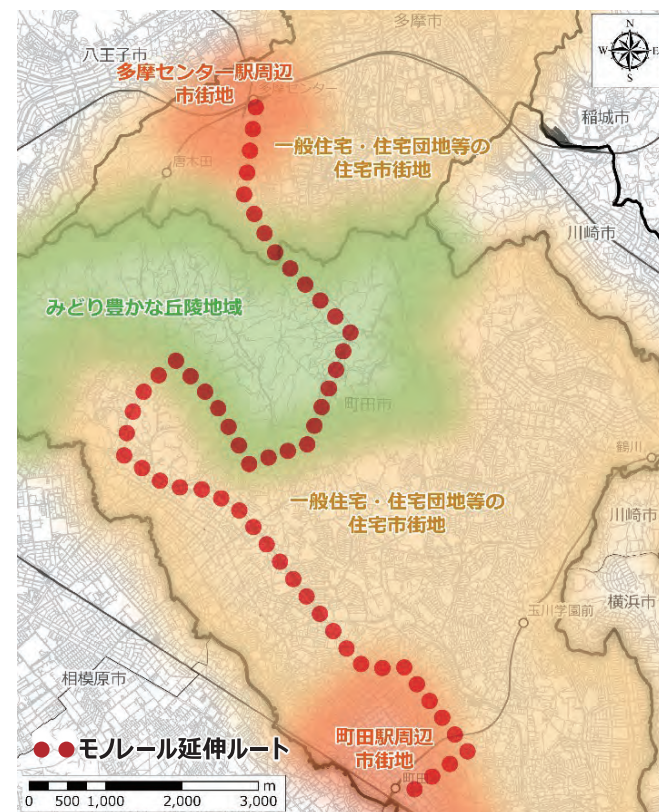
まち全体の回遊性の向上や
にぎわいの広がりまちの魅力を向上させる
都市機能の誘導

図 沿線地域の土地利用の特徴

Ⅲ モノレールの特性と期待される人やまちへの効果

本編 P18

■ モノレールの特性

輸送力が向上する
定時性・速達性が向上する

環境にやさしい

乗り換えなしで
町田～多摩センター～立川等を
行き来できる

新たに駅が整備される

など



■ 期待される人やまちへの効果

「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る効果

- 都市間交流が進み、地域全体が発展する
- 移動の信頼性が高まり、住む場所としての価値や、訪れたい場所としての安心感が高まる
- 駅周辺において、新たな人の流れや都市機能の集積が起こる

など

「移動の利便性」に係る効果

- 移動がしやすく、快適になる
- 心理的、時間的な負担が軽減し、移動がしやすくなる
- 駅利用者の利便性が高まる

Ⅳ 目指す沿線のビジョン

本編 P19～P20

■ 沿線のビジョン

第Ⅱ章で整理した「沿線地域の課題」を解消するとともに、第Ⅲ章「モノレールの特性と期待される人やまちへの効果」を踏まえて、目指す沿線のビジョンを定めました。

『みんなが安心して快適に住み続けられる
わたしの“ココチよさ”がかなうまち』

沿線の移動の利便性が高い

誰もがモノレールやバスなど公共交通を
気軽に利用できて目的地までアクセスしやすい

沿線が暮らしやすい・過ごしやすい

住まいが幅広い多世代のニーズに対応している

地域の特性に合わせて、
都市機能がバランスよく整っている誰でも気軽にみどりにふれることができ、
みどりを活かした交流が生まれている町田駅周辺や多摩センター駅周辺の魅力が高まり、
にぎわいがあふれている

■ ビジョン実現に向けたまちづくりの進め方

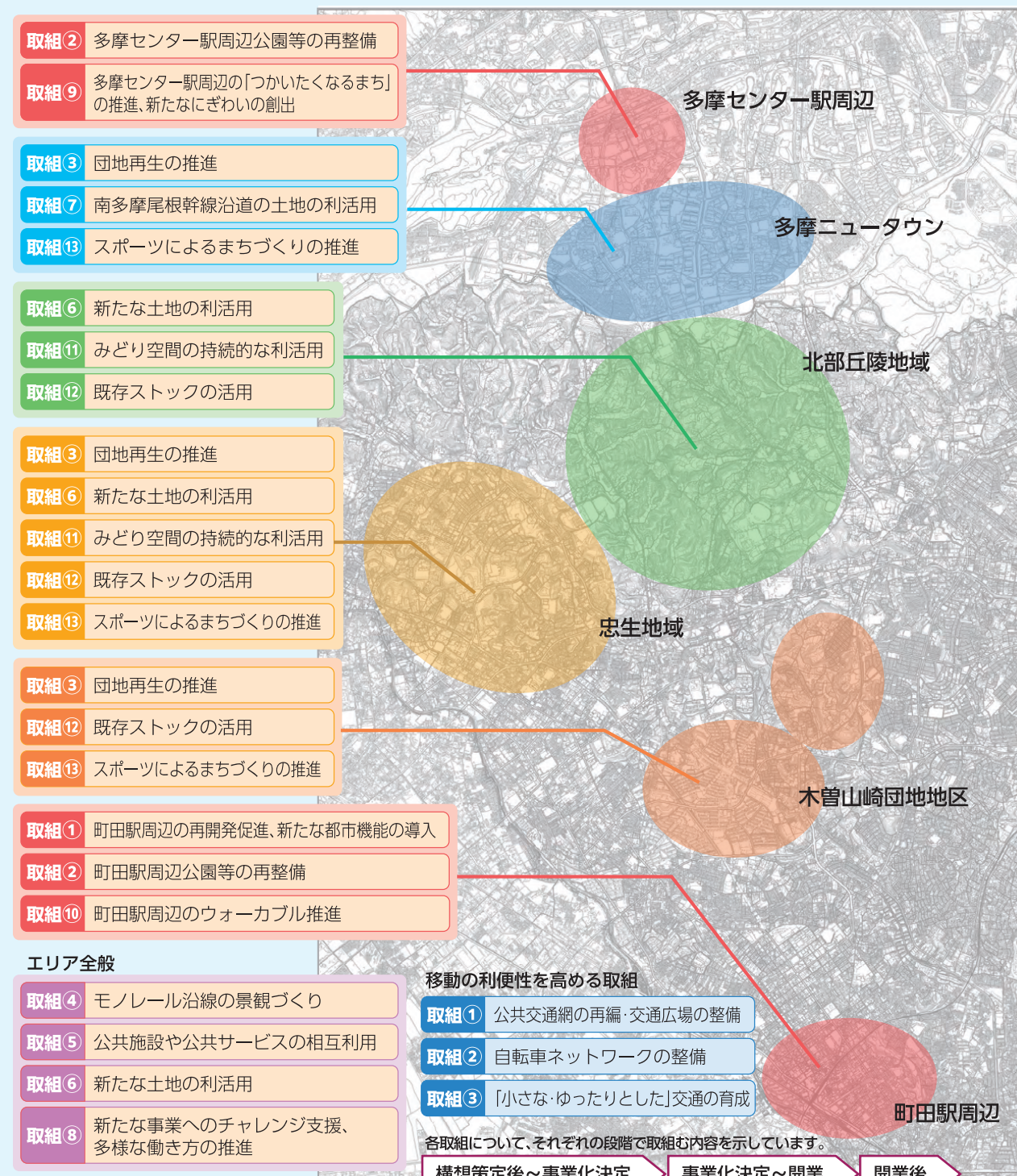
「暮らしやすさ・
過ごしやすさ」に
係る課題「移動の利便性」に
係る課題モノレール事業化決定までに
進めるまちづくり「暮らしやすさ・
過ごしやすさ」を
向上させる施策「移動の利便性」を
高める施策

解消

モノレール事業化決定後に
進めるまちづくり「暮らしやすさ・
過ごしやすさ」を
向上させる施策「移動の利便性」を
高める施策

展開

暮らしやすさ・過ごしやすさを向上させるエリアごとの取組



沿線ビジョンのイメージ(モノレールによるエリアのつながりと各エリアの将来イメージ)



V 多摩都市モノレール町田方面延伸開業までのプロセス

本編 P41

